

## 長崎県長崎市で観察された氷を食べるオオセグロカモメ およびセグロカモメ

籠島恵介

〒856-8561 長崎県大村市古賀島町133-18-2-44

2005年 1月から 2月にかけて、長崎県長崎市三重の長崎新漁港(32°49'N, 129°39'E)の駐車場において、オオセグロカモメ *Larus schistisagus* とセグロカモメ *L. argentatus* が、大量の氷を摂取する行動が観察されたので報告する。

この行動が観察された長崎新漁港の年間水揚げ量は、全国15位を誇る国内でも有数の漁港(農林水産省統計部 2005)であり、市場から廃棄された魚や漁船からの水揚げ作業でこぼれ落ちた魚などを採餌する、トビ *Milvus migrans*、ハシブトガラス *Corvus macrorhynchos*、アオサギ *Ardea cinerea* の集群が 1年を通じて観察され、冬季にはオオセグロカモメ、セグロカモメ、ウミネコ *L. crassirostris*、ユリカモメ *L. ridibundus* がこれに加わる。

これら鳥類の観察を2004年11月から2005年 4月までの間に月 2~3回、計14回行なった。水揚げ作業は未明からはじまり、遅くとも昼前には終わる。作業の邪魔にならないよう配慮し、観察は午前10時以降から日没までの間に 2~3時間行なった。水揚げ作業を行なう岸壁に設置された 2つの防波堤では、オオセグロカモメおよびセグロカモメが多数観察され、その数は12月上旬から増え、300-1,000羽に及ぶことがあった。

トロ箱の鮮魚を冷やすために、港に隣接する製氷所からダンパー車で運び込まれたクラッシュアイスには出荷作業が終わると、余ったものが漁港敷地内の一番奥にある広い駐車場に捨てられる。氷塊は大きなもので直径10cmほどであり、多くは 3cm未満であった。

氷が多量に捨てられていた2005年 1月22日の15時30分ごろと 2月 2日の14時30分ごろに、オオセグロカモメおよびセグロカモメが10羽以上、集群を作るのが観察された(図 1, 2)。また、氷の周囲には、氷を食べ終わった、あるいはこれから食べるための順番待ちと思われる個体が、多数集群を形成していた。

氷を食べ続ける時間は 1個体あたり少なくとも 1分以上であった。口の中で溶かすような行動はみられず、素早く丸飲みしていた。氷の塊同士が付着している場合には、くちばしで突き崩すこともみられた。時には複数個体がお互いに牽制したりしていた。氷を食べる量は個体によってかなり違うようにみえた。観察開始時間までにカモメ類によって氷が食べつくされ、この行動を見逃すことも考えられるため、実際に氷を食べる頻度はもっと高い可能性もある。また、同観察期間中にウミネコとユリ

---

2005年12月 5日 受理

キーワード: オオセグロカモメ, セグロカモメ, 氷, 長崎

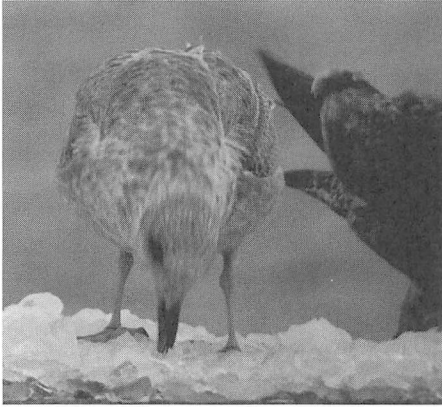


図 1. 氷を食べるオオセグロカモメの幼鳥  
Fig.1. Juvenile Slaty-backed gulls eating ice,  
Jan.22 2005.



図 2. 氷を食べるオオセグロカモメの幼鳥  
Fig. 2. Flock of Slaty-backed Gulls and Herring Gulls,  
Feb.2 2005.

カモメについて、氷を食べる行動を観察することはなかった。

調査地において氷は、イカ類の足などが大量に混ざっている場合を除き、水揚げ作業の終わった漁船の船倉から岸壁の上に捨てられた、海水の混じった氷には、カモメ類は群がらなかった。このことから、海水が混じらない氷を好んで摂取しているものと考えられる。北海道においては、オオセグロカモメ、セグロカモメに加え、シロカモメ *L. hyperboreus*、ワシカモメ *L. glaucescens* 等の大型カモメが、冬季に雪を摂取するとの観察例があるという(先崎啓究 私信)。これらのことからオオセグロカモメあるいはセグロカモメなどの大型カモメ類については冰雪を積極的に摂取する行動が他の地域においても広く観察される可能性がある。

#### 引用文献

農林水産省統計部. 2005. 水産物流通統計年報-平成15-. 農林統計協会, 東京.

Observation of Slaty-backed and Herring Gulls swallowing lumps of ice  
at a fishing port in Nagasaki, southern Japan

Keisuke Kagoshima

133-18-2-44 Kogashima, Ohmura, Nagasaki 856-8561, Japan

Slaty-backed Gulls *Larus schistisagus* and Herring Gulls *L. argentatus* were observed swallowing lumps of ice at Nagasaki fishing port (32°49'N, 129°39'E) in Nagasaki Prefecture, southern Japan on January 22 and February 2, 2005. These ice lumps were the remains of the crushed ice used to preserve fish, and were dumped in a mass at a corner of the parking lot of the port. More than ten gulls flocked together on a pile of ice lumps, most of which were less than 3 cm in diameter, and were each observed swallowing one piece of ice after another for more than one minute. Some of the gulls broke up ice lumps that were stuck together with their beak. Some gulls occasionally took a threatening attitude toward one another while they were at ice lumps. There was also a large flock of gulls gathering around the ice pile as if waiting their turns. The amount of ice the gulls took in at a bout appeared to vary from one individual to another.

Although this behavior was observed only twice in January and February 2005, there is a strong possibility that the gulls more frequently ingest ice. In Hokkaido, northern Japan, Glaucous Gulls *Larus hyperboreus* and Glaucous-winged Gulls *L. glaucescens*, as well as Slaty-backed Gulls and Herring Gulls, were observed to ingest snow. Therefore, this behaviour may be more widespread among large gull species.

*Key word: Herring Gull, Ice, Larus argentatus, Larus schistisagus, Nagasaki, Slaty-backed Gull*